

## 重度障害者用意思伝達装置に対する補装具費支給実績の詳細分析

研究分担者 井村 保 ( 中部学院大学 )

### 研究要旨：

全国の身更相を対象として昨年度実施した、意思伝達装置に係る判定状況の詳細情報 ( 個別の疾患・支給機種等 ) の比較分析を試みた。疾患別申請者の性別や平均年齢は、概ね各疾患患者の統計値と近い構成であったが、一部の疾患では、統計値との違いが顕著であったことから、これまでの生活環境や PC 操作の理解等の相違が、装置の導入相違にもつながるといえる。また、機器別の比較においても、PC 操作を行うものについては男性の比率が高い。そのため、身体機能評価のみならず、PC 操作能力などを含めた判断が必要になり、支給判定前の十分な期間の試用・評価が必要になるほか、より適した装置に適宜交換できる貸与制度になじむと考えることができるといえる。

### A . 研究目的

重度障害者用意思伝達装置 ( 以下、意思伝達装置 ) にかかる補装具費の支給については、当該都道府県または指定都市が設置する身体障害者更生相談所 ( 以下、身更相 ) の適合判定を経て、市町村が行うことになっているが、その具体的内容の全国的な状況は明らかになっていない。そのため、昨年度の研究では全国の身更相を対象とした照会調査を行い、購入基準、修理基準に対する判定方法や、特例補装具費の扱いや課題等の概要を明らかにした<sup>1</sup>。

今年度は、この調査における判定内容の詳細情報 ( 個別の疾患・支給機種等 ) を比較分析することで、疾患や機種固有の特徴を明確化し、判定基準等の制度における課題を具体化することを目的とする。

### B . 研究方法

全国の身更相を対象として昨年度実施した照会調査における、個別の疾患・支給機種の照会結果を集計し、全体の状況 ( 昨年度調査の結果 ) や他の調査研究の結果等と比較考察する。

#### 昨年度の照会概要

<sup>1</sup> 井村保 . 重度障害者用意思伝達装置の補装具費支給判定に関する調査 . 厚生労働科省障害者対策総合研究事業・音声言語機能変化を有する進行性難病等に対するコミュニケーション機器の支給体制の整備に関する研究班、平成 25 年度総括・分担研究報告書、2014 . p.19-42

全国 80 力所の身更相のうち、53 力所 ( 66.3% ) から回答を得ている。うち、1 力所は判定実績がないとの回答であった。残りの 52 力所の有効回答の合計で、申請件数は 2,335 件、支給可 ( 適 ) 判定は 2,278 件 ( 97.6% ) であった。これは、福祉行政報告例による全国の統計値 ( 申請件数は 3,387 件、決定は 3,295 件 ( 97.3% ) ) と同水準といえる ( 表 1 ) 。

また、標本率は、申請件数で 2,335 / 3,387 件 ( 68.9% )、決定 ( 可判定 ) 件数で 2,278 / 3,295 件 ( 69.1% ) と偏りは見られない。さらに、適判定数は、全国の統計値の購入基準での補装具費支給件数の年間平均値 ( 506.6 件 ) の 6.5 倍 ( 調査対象期間 ) である 3,292.9 件の 66.3% ( 回収率 ) にあたる 2,183.2 件よりも多い。

以上のことから、得られたデータは補装具費支給全容の標本として十分な件数といえる。

#### 分析対象の判明状況と分析方法

有効回答の得られた 52 力所中 39 力所から、1,787 件の詳細情報の提示があった。このうち期間外 ( 25 年度分 ) 16 件および修理基準相当 ( 本体を含まないケース ) や内容の未記入等 141 件は、本分析から除外することとした。

そのため、有効な詳細情報は 1,630 件であり、全申請 ( 3,387 件 ) に対する判明率としては 48.1% となる。なお、本体を含まないケースの 60 件については、一部で利用する。

また、統計処理においては、IBM社のSPSS Statistics Ver.22を用いた。また、有意水準は5% ( $p < 0.05$ )として、有意差の有無を判断した。

## C. 研究結果

### (1) 判定概要 (単純集計)

有効な詳細情報(1,630件)における判定概要や、基本的個人属性の集計結果を、平成20年度に日本リハビリテーション工学協会が実施した同様の調査結果<sup>2</sup>を詳細に分析した先行研究(以下、22年度分析)<sup>3</sup>等で得られている結果とともに、表2に示す。また、それらの状況は以下の通りである。

#### 判定結果

判定結果は、1,556件中1,532件(98.5%)が可であった。前掲した昨年度調査(97.4%)や、福祉行政報告例による全国の統計値(97.3%)と比較しても同程度といえる。

判定方法については、直接判定が1,627件中550件(33.8%)であった。これは同じく昨年度調査(36.4%)と同程度といえるが、22年度分析(41.2%)より低かった。

#### 基本的個人属性

性別は、男性931人(58.8%)、女性651人(41.2%)であった。年齢については全体では、平均±標準偏差が $56.7 \pm 13.7$ 歳であった。これらに対しては、十分な比較対象となる先行研究はない。

#### 疾患別内訳

最多のALS<sup>4</sup>は1,615件中1,094件(67.7%)であり、その他の神経・筋疾患(MSA/SCD、PMD、他の合計で13.9%)、それ以外の疾患では、CVA(7.2%)、CP(6.4%)が多く、頸髄損傷もわずかに確認できた(1.9%)。

また、本体を含まない(修理基準対応)60件

については、ALSが49件(81.6%)を占めている。

なお、これらの割合は22年度分析(395件中245件:62.0%)と比較すると、ALSの割合が、やや増加したといえる。

#### 機種別内訳

最多は伝の心(73.6%)で、以下、レッツチャット<sup>5</sup>(13.0%)、オペレートナビ(9.5%)と続いている。また、生体現象方式は1.4%、特例実績のある視線入力方式は0.7%であった。

なお、前述の22年度分析との比較でも順位は変わらないが、占有率の変動はみられる。これについては、年次変動を合わせて検討することとする。

### (2) 相互比較 (クロス集計)

本研究においては各項目のクロス集計を行うことにより、疾患および機種を中心とした以下の相互関係を確認した。

#### 疾患 - 機種

疾患による選択(判定)機種では、伝の心がいずれの疾患においても最多であるが、PMDにおいては唯一半数に満たない(47.4%)。このPMDではオペレートナビが多く(42.1%)、伝の心と同程度である。

その他、各疾患で20%を超えるものは、頸髄損傷でのオペレートナビ(20.7%)、レッツチャットは、MSA/SCDで28.6%、CVAで26.5%、CPで22.2%であった。(表3)

#### 疾患 - 個人属性

各疾患での性別において、男性の比率が特に高いのは、PMD(87.9%)、頸髄損傷(76.7%)、CVA(75.9%)であり、そのほかの疾患については、大きな差は見られなかった。

また年齢については、ALSが一番高く( $60.7 \pm 10.6$ 歳)、MSA/SCD、CVA、頸髄損傷、その他の神経筋疾患、CPと続き、PMDが一番若かった( $35.8 \pm 11.2$ 歳)。

各疾患の男女比や平均年齢の本調査における判定対象者(申請者)と各種の資料による母集団(統計値)(表4)と比較すると、ALS、MSA/SCDでは、男女比はほぼ同じで平均年齢は申請者が低かった。また、CPでは、男女比

<sup>2</sup> 重度障害者用意思伝達装置の適正で円滑な導入を促進するガイドラインの作成(平成20年厚生労働省障害者保健福祉推進事業(障害者自立支援調査研究プロジェクト)、日本リハビリテーション工学協会)

<sup>3</sup> 井村保・重度障害者用意思伝達装置の利用に関する社会的データの整理・厚生労働省障害者対策総合研究事業(身体・知的等障害分野) 重度障害者意思伝達装置の支給と利用支援を包括するコミュニケーション総合支援施策の確立に関する研究班、平成22年度総括報告・2011・p.41-59

<sup>4</sup> ALSをはじめ各疾患の名称と略称の対応は表1中に記す。

<sup>5</sup> レッツチャットは21年度にモデルチェンジ(価格改定)。

はほぼ同じで平均年齢は申請者が高かった。しかし、CVAでは、男女比は申請者で大きく男性に偏っていた上に、平均年齢が低かった。

なお、PMD および頸髄損傷では、発症者自体の男女差が大きく、それに近い男女比であった。申請者の平均年齢は、PMD では高年齢、頸髄損傷では統計値で2極化するピークの間になっていた(表5)。

### 疾患 - 判定

判定実施年度は、年度単位で疾患構成比を比較する。全体として多数を占める ALS については大きな変動はないといえるが、20年度ではCP(9.7%)が、22年度ではPMD(6.4%)、23年度ではその他の神経筋疾患(5.7%)が多く見られた。逆に、22年度では、MSA/SCD(4.4%)と少なかった。

判定方法については、疾患ごとに比較しても有意差は見られず、直接判定率は全体で33.8%に留まっていた。

判定結果については、疾患ごとに比較すると概ね可判定であるが、頸髄損傷(89.7%)、CP(94.0%)で、全体(98.5%)と比較して低かった。(表6)

### 機種 - 個人属性

各機種での性別において、男性の比率が特に高いのは、オペレートナビ(76.0%)、視線入力(75.0%)であり、そのほかの機種については、大きな差は見られなかった。

また年齢については、生体現象方式が一番高く(60.3±9.4歳)、レッツチャット、伝の心、視線入力方式と続き、オペレートナビが一番若かった(47.9±13.9歳)。(表7)

### 機種 - 判定

判定年度は、年度単位で機種構成比を比較する。多数を占める伝の心は、減少傾向にあり、レッツチャットが増加傾向にある。また、視線入力方式が確認できる23年度以降は、オペレートナビがやや減少している。なお、生体現象方式は、18年度で多いが(8.5%)その後はやや減少した。(件数としては大きな変動はない。)

判定方法について、機種ごとに比較すると、視線入力方式では、全体の傾向とは異なり、訪問判定が多数を占めている(66.7%)ほか、オペレートナビ(44.8%)、生体現象(43.5%)も

半数に満たないが比率としては高いといえる。

判定結果については、生体現象方式(86.4%)、その他(82.1%)が全体(98.5%)と比較して可の割合が比較的lowかった。(表8)

## D. 考察

### (1) 支給判定の状況から

ALS 患者が伝の心を利用しているケースが全体の53.1%と過半数を占めていることから、意思伝達装置がALS患者や伝の心を想定して基準が考えられていることで、多くの場合は適切な対応が可能であるといえる。

しかしながら、付加機能の多い伝の心の占める割合が低下して簡易な機能のレッツチャットが増加していることや、視線入力方式の登場をふまえると、公正・適切な判定のためには、付加機能を有する装置の適用例を示すことや、文字等走査入力方式や生体現象方式に加えて、視線入力方式の基準策定が必要になるといえる。

一方、ALS以外の疾患も含めて神経筋疾患は81.6%の大多数である。しかし、それ以外にCVA、CP、頸髄損傷などの障害固定のある疾患も15%を超えることから、進行性疾患のみを対象としないように留意する必要があるといえる。

### (2) 疾患における特性から

#### 疾患毎の母集団との比較

ほとんどの疾患では、申請者と統計値で男女比はほぼ等しいが、男性の比率がやや高い程度であった。しかし、CVAにおいては大きく男性に偏っていた。また、平均年齢も非常に低かったことを合わせて考えると、幅広い年代における発症があったとしても、若年層かつ男性の申請が多い傾向にあると考えられる。

また、平均年齢は、統計値より申請者の方が若い傾向にあるが、CP、PMDにおいては、申請者の方が高かった。これは、先天性疾患であることから、幼・小児期の患者もいることで統計値の平均年齢が低いことが要因と考えられる。

#### 機種選定の特徴

PMD や頸髄損傷さらには CP で男性の比率が高かったことに加え、平均年齢が低かったことをふまえて考えると、両疾患でオペレートナビの比率が高いことは、オペレートナビにおける平均年齢が若いことと矛盾しない。この背景

には、特に、PMD や CP は先天性であり、生活過程においてPC利用者が多いことなどが考えられる。しかし、重度の両上下肢の障害に加えて音声言語機能に障害がなければ、補装具としては支給対象にならず、日常生活用具の情報通信支援用具による周辺機器の給付のみが公費負担の現状であり、同じ製品が制度をまたぐことになる。

また、頸髄損傷やCVAのような受傷機転が明確な疾患でも男性比率が高いことを考えると、PC操作の経験者が意思伝達装置を導入することが多いと考えることもできる。しかし、レッツチャットの利用割合も低いとは言えないことから、PC操作が困難な場合などでは、複雑な操作を要求する装置より、単純明快な装置へのニーズも高いと考えられる。

### **(3) 機器の利用における特性から**

前項と同様になるが、オペレートナビや視線入力方式のように、PC操作を行うものについては男性の比率が高い。これは、意思伝達装置の利用世代においてはまだPC利用経験の男女差があることが要因としても推測できる。

また判定方法として、視線入力方式、オペレートナビ、生体現象方式では訪問判定率の高いことは、支給割合では主流ではない装置においては、真に利用できているか確認するために直接判定する身更相の意図が伺えられる。そのうえで、生体現象方式での不可判定率が他の装置より高いことは、文字等走査入力方式が利用できない状態が対象になることをふまえると、病状の進行で、最小コミュニケーション状態(minimal communication state ; M C S)や完全閉じ込め状態(totally locked-in state ; T L S)に近い状況での申請が多ことや、正答率や有効性の判定が困難であることも推測できる。

なお、平成23年度以降で、機器の構成比の変化が大きいことは、一部の製品での価格改定を伴うモデルチェンジや新たな装置が登場してきたことに加えて、方式の区分や付加機能の扱いを明確にした平成22年度の購入基準の改正の影響もあると推測できる。

## **E . 結論**

意思伝達装置の主たる利用者には、ALSをは

じめとした進行性神経・筋疾患患者の利用が多いことをふまえて現行制度の課題をまとめる。

病状の進行に応じて必要な機器(特に入力装置)の変更は修理基準での対応も可能であるが、障害(症状)固定を前提として一定期間の継続利用を想定した、補装具制度では十分に対応できないことも多いといえる。

加えて、一部の疾患では、統計値と申請者の男女比や平均年齢の違いが顕著であったことから、これまでの生活環境やPC操作の理解等の相違が、装置の導入に対する考え方や付加機能に対するニーズの相違にもつながるといえる。このとき、選択する機種に差が生じることは、病状進行のみならず、生活環境等の社会モデルの変化への対応も必要になる。

また、視線入力方式や生体現象方式などで訪問判定が多いことということは、適切な判定基準(適用者の明確化)が出来ていないことも要因といえる。そのため、結果的に判定(支給)時期が遅くなり、支給しても十分な期間の利用継続が出来ないことも懸念されることから、支給判定前の十分な期間の試用・評価を経ての早期支給が必要になる。

以上より、意思伝達装置は、補装具費の支給よりは、介護保険制度の様により適した装置に適宜交換できる貸与制度になじむと考えることができるといえる。しかし、障害固定のある疾患の場合には、長期間の継続利用も可能であり、全面的に貸与制度への移行ではなく、購入費支給との選択や併用を含めた検討も必要と考える。

## **F . 健康危険情報**

(統括研究報告書にまとめて記載)

## **G . 研究発表**

### **(1) 論文発表**

(投稿中、1件)

### **(2) 学会発表**

なし

## **H . 知的所有権の出願・登録状況**

なし

(本研究に関しては、申告すべきCOI(利益相反)状態はない。)

表 1 . 意思伝達装置にかかる補装具費支給件数の年次推移

	18年度	19年度	20年度	(特例)	21年度	(特例)	22年度	(特例)	23年度	(特例)	24年度	(特例)
購入申請件数	118	559	502	25	554	24	488	24	537	18	533	15
購入決定件数	114	544	486	25	531	24	471	23	517	18	528	14
金額(千円)	46,573	251,185	219,543	9,264	233,793	11,595	222,927	12,630	234,415	13,660	237,540	11,639
平均(千円)	409	462	452	370	440	483	473	549	453	759	450	831
修理申請件数	75	318	248	2	343	9	326	7	419	2	427	5
修理決定件数	73	300	246	2	340	9	328	7	413	3	425	5
金額(千円)	3,529	13,673	9,821	99	13,087	450	13,887	403	14,135	182	15,205	221

平成18年度 本表は障害者自立支援法による平成18年10月から平成19年3月までの件数等である。  
 平成19年度 福岡県の件数を修正したものである。  
 平成22年度 東日本大震災の影響により、岩手県(盛岡市以外)の一部、宮城県(仙台市以外)、  
 福島県(郡山市及びいわき市以外)を除いて集計した数値。  
 平成23年度 東日本大震災の影響により、福島県(郡山市及びいわき市以外)を除いて集計した数値。

表 2 . 判定結果の概要と先行研究等の比較

		今回	昨年度調査	福祉行政報告例	22年度分析				
判定結果	可(適)	1532	98.5%	2278	97.6%	3295	97.3%	827	92.5%
	不可	20	1.3%	(未分類)	(未分類)	(未分類)	(未分類)	(未分類)	(未分類)
	取下げ	3	0.2%	(未分類)	(未分類)	(未分類)	(未分類)	(未分類)	(未分類)
	死亡	1	0.1%	(未分類)	(未分類)	(未分類)	(未分類)	(未分類)	(未分類)
	合計	1556		2335		3387		894	
判定方法	直接	550	33.8%	849	36.4%			341	41.2%
	(うち、来所)	29	1.8%	43	1.8%			(未分類)	(未分類)
	(うち、巡回)	2	0.1%	3	0.1%			(未分類)	(未分類)
	(うち、訪問)	519	31.9%	803	34.4%			(未分類)	(未分類)
	文書	1077	66.2%	1486	63.6%			531	64.2%
合計	1627		2335				827		
性別	男性	931	58.8%						
	女性	651	41.2%						
	合計	1582							
年齢	平均	56.7							
	標準偏差	13.7							
	人数	1583							
疾患	筋萎縮性側索硬化症(ALS)	1094	67.7%					245	62.0%
	多系統委縮症/ 脊髄小脳変性症(MSA/SCD)	119	7.4%					18	4.6%
	筋ジストロフィー(PMD)	58	3.6%					16	4.1%
	その他(神経筋疾患)	47	2.9%					(その他に含む)	
	脳血管障害(CVA)	117	7.2%					42	10.6%
	脳性麻痺(CP)	103	6.4%					30	7.6%
	頸髄損傷	30	1.9%					10	2.5%
	その他	47	2.9%					34	8.6%
	合計	1615						395	
機種	伝の心	1187	73.6%					194	67.1%
	レッツチャット(LC)	209	13.0%					51	17.6%
	オペレートナビ(オベナビ)	154	9.5%					22	7.6%
	生体現象方式	23	1.4%					12	4.2%
	視線入力方式	12	0.7%					0	0.0%
	その他	28	1.7%					10	3.5%
	合計	1613						289	

表3．判定結果における疾患と申請機種の関係

機種	伝の心	度数 行 % 列 % 全 %	疾患							合計	
			ALS	MSA/SCD	PMD	その他(神経筋疾患)	CVA	CP	頸髄損傷		その他
	伝の心	度数	848	77	27	30	80	60	19	31	1172
		行 %	72.4%	6.6%	2.3%	2.6%	6.8%	5.1%	1.6%	2.6%	100.0%
		列 %	78.2%	64.7%	47.4%	65.2%	68.4%	60.6%	65.5%	67.4%	73.3%
	全 %	53.1%	4.8%	1.7%	1.9%	5.0%	3.8%	1.2%	1.9%	73.3%	
	LC	度数	109	34	1	5	31	22	0	7	209
		行 %	52.2%	16.3%	.5%	2.4%	14.8%	10.5%	0.0%	3.3%	100.0%
		列 %	10.0%	28.6%	1.8%	10.9%	26.5%	22.2%	0.0%	15.2%	13.1%
	全 %	6.8%	2.1%	.1%	.3%	1.9%	1.4%	0.0%	.4%	13.1%	
	オベナビ	度数	93	2	24	9	4	11	6	5	154
		行 %	60.4%	1.3%	15.6%	5.8%	2.6%	7.1%	3.9%	3.2%	100.0%
		列 %	8.6%	1.7%	42.1%	19.6%	3.4%	11.1%	20.7%	10.9%	9.6%
	全 %	5.8%	.1%	1.5%	.6%	.3%	.7%	.4%	.3%	9.6%	
	生体現象	度数	18	4	0	0	1	0	0	0	23
		行 %	78.3%	17.4%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
		列 %	1.7%	3.4%	0.0%	0.0%	.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
	全 %	1.1%	.3%	0.0%	0.0%	.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	
	視線入力	度数	10	1	0	0	0	1	0	0	12
		行 %	83.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%
		列 %	.9%	.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	.8%
	全 %	.6%	.1%	0.0%	0.0%	0.0%	.1%	0.0%	0.0%	.8%	
	その他	度数	7	1	5	2	1	5	4	3	28
		行 %	25.0%	3.6%	17.9%	7.1%	3.6%	17.9%	14.3%	10.7%	100.0%
		列 %	.6%	.8%	8.8%	4.3%	.9%	5.1%	13.8%	6.5%	1.8%
	全 %	.4%	.1%	.3%	.1%	.1%	.3%	.3%	.2%	1.8%	
合計 (p<0.01)	度数	1085	119	57	46	117	99	29	46	1598	
	行 %	67.9%	7.4%	3.6%	2.9%	7.3%	6.2%	1.8%	2.9%	100.0%	
	列 %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	全 %	67.9%	7.4%	3.6%	2.9%	7.3%	6.2%	1.8%	2.9%	100.0%	

表4．申請者の疾患別個人属性の比較

性別	属性	度数 列 %	疾患							合計
			ALS	MSA/SCD	PMD	その他(神経筋疾患)	CVA	CP	頸髄損傷	
男	度数	602	55	51	24	88	62	23	18	923
	列 %	57.0%	48.7%	87.9%	51.1%	75.9%	60.8%	76.7%	40.9%	58.9%
女	度数	455	58	7	23	28	40	7	26	644
	列 %	43.0%	51.3%	12.1%	48.9%	24.1%	39.2%	23.3%	59.1%	41.1%
合計 (p<0.01)	度数	1057	113	58	47	116	102	30	44	1567
	列 %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
年齢 (p<0.01)	度数	1058	113	58	47	116	102	30	44	1568
	平均	60.7	58.5	35.8	46.1	53.3	42.8	46.3	42.0	56.7
	標準偏差	10.6	11.0	11.2	17.6	12.4	14.0	19.3	16.5	13.7

表5．各種疾患別の基本属性の統計値

	ALS	MSA/SCD	PMD	その他(神経筋疾患)	CVA	CP	頸髄損傷	その他
男性	55.6%	48.8%	86.4%	/	49.9%	57.9%	71.3%	/
女性	44.4%	51.2%	13.6%		50.2%	42.1%	28.7%	
平均( 1)	65.9	64.4	14.6		74.4	35.5	55.4	
(男性)	65.6	63.8	-		71.9	36.3	-	
(女性)	66.3	64.9	-		76.6	36.4	-	
調査数	9,096	37,180	1,273( 2)		1,235,000	76,000	1,706	
出展	( A )	( A )	( B )		( C )	( C )	( D )	

- 出展 (A) 平成24年度 衛生行政報告例  
 (B) 重症心身障害、進行性筋ジストロフィーの疫学 (標本調査)  
 (C) 平成23年 患者調査 (人数は、1000人単位の概数)  
 (D) 全国脊髄損傷登録統計(2002年1月～12月) (標本調査)
- 1 区間中央値を基に算出した推定値(頸椎損傷は計算値)  
 2 (C)による患者数は、6,000人程度となっている

表 6 . 申請者の疾患別判定概要の比較

			疾患							合計	
			ALS	MSA/SCD	PMD	その他(神経筋疾患)	CVA	CP	頸髄損傷		その他
年度	18	度数	35	3	0	1	3	4	1	0	47
		行 %	74.5%	6.4%	0.0%	2.1%	6.4%	8.5%	2.1%	0.0%	100.0%
	19	度数	172	22	6	1	22	16	5	10	254
		行 %	67.7%	8.7%	2.4%	.4%	8.7%	6.3%	2.0%	3.9%	100.0%
	20	度数	165	21	12	5	18	25	3	9	258
		行 %	64.0%	8.1%	4.7%	1.9%	7.0%	9.7%	1.2%	3.5%	100.0%
	21	度数	173	18	13	9	16	12	2	7	250
	行 %	69.2%	7.2%	5.2%	3.6%	6.4%	4.8%	.8%	2.8%	100.0%	
22	度数	170	11	16	8	20	8	8	8	249	
	行 %	68.3%	4.4%	6.4%	3.2%	8.0%	3.2%	3.2%	3.2%	100.0%	
23	度数	185	23	7	16	16	22	6	3	278	
	行 %	66.5%	8.3%	2.5%	5.8%	5.8%	7.9%	2.2%	1.1%	100.0%	
24	度数	194	21	4	7	22	16	5	10	279	
	行 %	69.5%	7.5%	1.4%	2.5%	7.9%	5.7%	1.8%	3.6%	100.0%	
合計 (p<0.05)		度数	1094	119	58	47	117	103	30	47	1615
		列 %	67.7%	7.4%	3.6%	2.9%	7.2%	6.4%	1.9%	2.9%	100.0%
判定方法	来所	度数	13	0	1	0	2	10	2	1	29
		列 %	1.2%	0.0%	1.7%	0.0%	1.7%	9.8%	6.7%	2.1%	1.8%
	巡回	度数	1	0	0	0	0	0	0	1	2
		列 %	.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	.1%
	訪問	度数	350	46	19	15	41	27	9	12	519
		列 %	32.0%	38.7%	32.8%	31.9%	35.0%	26.5%	30.0%	25.5%	32.2%
	文書	度数	729	73	38	32	74	64	19	33	1062
	列 %	66.7%	61.3%	65.5%	68.1%	63.2%	62.7%	63.3%	70.2%	65.8%	
取下	度数	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	列 %	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	.1%	
合計 (n.s.)		度数	1093	119	58	47	117	102	30	47	1613
		列 %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
判定結果	可	度数	1050	107	56	44	109	94	26	43	1529
		列 %	99.4%	96.4%	100.0%	97.8%	98.2%	94.0%	89.7%	95.6%	98.5%
	不可	度数	5	3	0	1	1	5	3	2	20
		列 %	.5%	2.7%	0.0%	2.2%	.9%	5.0%	10.3%	4.4%	1.3%
	取下	度数	0	1	0	0	1	1	0	0	3
	列 %	0.0%	.9%	0.0%	0.0%	.9%	1.0%	0.0%	0.0%	.2%	
死亡	度数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	列 %	.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	.1%	
合計 (p<0.01)		度数	1056	111	56	45	111	100	29	45	1553
		列 %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 7 . 申請者の申請機種別個人属性の比較

			機種					合計	
			伝の心	LC	オペナビ	生体現象	視線入力		その他
性別	男	度数	651	114	117	10	9	19	920
		列 %	57.1%	54.5%	76.0%	43.5%	75.0%	67.9%	58.7%
	女	度数	490	95	37	13	3	9	647
		列 %	42.9%	45.5%	24.0%	56.5%	25.0%	32.1%	41.3%
合計		度数	1141	209	154	23	12	28	1567
(p<0.01)		列 %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
年齢		度数	1142	209	154	23	12	28	1568
	(p<0.01)	平均	57.6	59.9	47.9	60.3	56.6	41.1	56.7
		標準偏差	13.1	13.3	13.9	9.4	8.7	15.7	13.7

表 8 . 申請者の申請機種別判定概要の比較

			機種					合計	
			伝の心	LC	オペナビ	生体現象	視線入力		その他
年度	18	度数	39	2	2	4	0	0	47
		行 %	83.0%	4.3%	4.3%	8.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	19	度数	186	32	17	4	0	7	246
		行 %	75.6%	13.0%	6.9%	1.6%	0.0%	2.8%	100.0%
	20	度数	204	21	31	5	0	2	263
		行 %	77.6%	8.0%	11.8%	1.9%	0.0%	.8%	100.0%
	21	度数	195	24	28	3	0	3	253
		行 %	77.1%	9.5%	11.1%	1.2%	0.0%	1.2%	100.0%
	22	度数	188	26	27	2	0	5	248
		行 %	75.8%	10.5%	10.9%	.8%	0.0%	2.0%	100.0%
	23	度数	196	44	25	3	6	3	277
		行 %	70.8%	15.9%	9.0%	1.1%	2.2%	1.1%	100.0%
	24	度数	179	60	24	2	6	8	279
		行 %	64.2%	21.5%	8.6%	.7%	2.2%	2.9%	100.0%
合計		度数	1187	209	154	23	12	28	1613
(p<0.01)		列 %	73.6%	13.0%	9.5%	1.4%	.7%	1.7%	100.0%
判定方法	来所	度数	18	6	3	0	0	2	29
		列 %	1.5%	2.9%	1.9%	0.0%	0.0%	7.1%	1.8%
	巡回	度数	2	0	0	0	0	0	2
		列 %	.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	.1%
	訪問	度数	357	63	69	10	8	10	517
		列 %	30.1%	30.3%	44.8%	43.5%	66.7%	35.7%	32.1%
	文書	度数	808	139	82	13	4	16	1062
		列 %	68.1%	66.8%	53.2%	56.5%	33.3%	57.1%	65.9%
	取下	度数	1	0	0	0	0	0	1
		列 %	.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	.1%
合計		度数	1186	208	154	23	12	28	1611
(p<0.01)		列 %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
判定結果	可	度数	1117	193	151	19	12	23	1515
		列 %	99.5%	96.5%	98.1%	86.4%	100.0%	82.1%	98.4%
	不可	度数	5	4	3	3	0	5	20
		列 %	.4%	2.0%	1.9%	13.6%	0.0%	17.9%	1.3%
	取下	度数	1	2	0	0	0	0	3
		列 %	.1%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	.2%
	死亡	度数	0	1	0	0	0	0	1
		列 %	0.0%	.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	.1%
合計		度数	1123	200	154	22	12	28	1539
(p<0.01)		列 %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%